

1世紀を見続けた吊り橋は 通勤・通学の歩道橋

こうへい ばし 橋 工 兵 橋



明治4年(1871)、広島城は藩主^{ながこと}浅野長勲が東京へ移住すると、同6年に広島鎮台が置かれ、軍の施設として重要な役割を担うようになりました。その後明治19年(1886)に第五師団と改称され、日清戦争時には大本営が置かれました。その第五師団の工兵営は白島地区の北寄り(現・安田学園近辺)にあり、牛田の作業場に向かうには神田橋まで迂回しなければならなかったため、最短ルートの木橋が明治22年に架けられました。工兵隊が架けた橋ということから「工兵橋」と名付けられたようです。

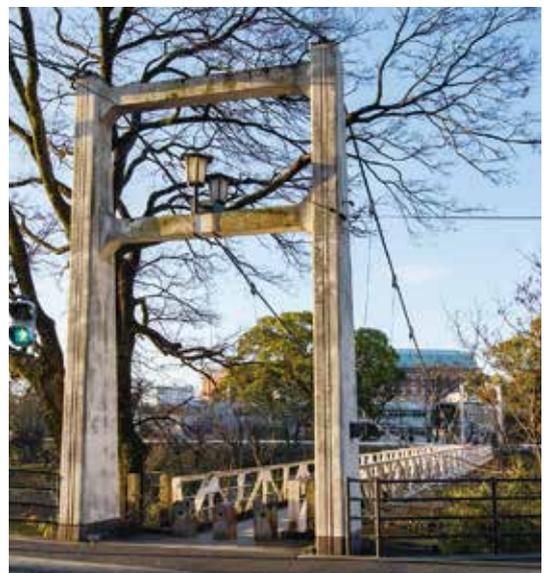
大正8年(1919)7月の梅雨前線豪雨で初代の工兵橋は流失し、同10年に架け替えられました。その後、昭和8年(1933)に塔柱RC造り木造吊橋として架け替えられ、昭和20年の被爆で床版の一部が落下したものの通行には支障がなかったため、多くの人々がこの橋を渡って北方面へ避難していきました。

老朽化が進んだ工兵橋は、昭和29年(1954)に3度目の架け替えが行われましたが、今なお塔柱の照明など、歴史を感じさせる風情を見せています。ただ、右岸側の橋歴板を見ると「1986年3月、広島市、単径間補剛吊橋、主ケーブル：7×19Φ52mm、塔柱：鉄筋コンクリートアンカー補強、他ケーブル取替工事、製作・施工：東京製鋼株式会社」と記されており、橋の強度を高める工事が昭和61年に行われたようです。

昭和48年(1973)7月、上流に「こうへい橋」が架けられた際、老朽化が進む工兵橋の撤去が検討されましたが、地元住民の強い要望もあり今日まで利用されています。なお、こうへい橋は当初「長寿園橋」^{ちやうじゆえん}の名称が予定されていましたが、白島・牛田両岸地区の意見がまとまらず、公平にとの意図から「こうへい橋」に決まったと言われています。

その後、平成に入り祇園新道が整備され、新こうへい橋に架け替えられました。牛田大橋から上流を眺めると、工兵橋、新こうへい橋、アストラムラインの高架橋が並ぶ様子がうかがえ、川の都広島が多様な橋の表情をしみじみ感じることができます。

■位置図



照明器具が歴史を感じさせる主塔



工兵橋を支えるメインケーブルとアンカーレイジ(橋台)



メインケーブルから伸びるハンガーロープと耐風索が桁を支える



京橋川に工兵橋、新こうへい橋、アストラムラインが並ぶ